



ハッサン・バイエフを呼ぶ会

Committee for Invitation of Dr. Khassan BAIEV

共同代表: 林克明 (フリージャーナリスト) ・ 岡田一男 (映像作家)

連絡先: 112-0001 東京都文京区白山2-31-2-101 岡田一男 気付

baiev@zau.att.ne.jp <http://tokyocinema.net/baiev.htm>

#2-101, 31 Hakusan-2, Tokyo-112-0001 JAPAN, phn: +813-4500-8535 fax: +813-3811-4576, baiev@zau.att.ne.jp

当会は近く、「チェチェンの子どもたち日本委員会(JCCC)」に組織替えされます。

原文: <http://www.chechenchildren.org/newsletter.html>

最新ニュースレター

2008年1月

支援者のみなさま:

チェチェンの情勢が近年改善してきているため、私はグロズヌイに2ヶ月間滞在して、現地の医療状況をモニタリングすることができました。私がチェチェンに滞在している間、ICCC(チェチェンの子どもたち国際委員会)の役員のルース・ダニーロフとニコラス・ダニーロフが、グロズヌイを訪ねてきてくれました。二人も、自分の目でチェチェンの病院の状況を観察し、ICCCの支援金がどのように使われているかを確認することができました。こちらについては、ルース・ダニーロフがチェチェンの全般的な印象について語ったhttp://boston.com/bostonglobe/editorial_opinion/oped/articles/2007/11/14/a_determined_spirit_guides_grozny/ ボストン・グローブの記事をご覧ください。

私たちは、政府が再建費用を一部援助しているグロズヌイの神経科病院を視察しました。他にも盲学校を視察しましたが、学校は再建されており、暖房器具も備わっていました。チェチェン視覚障害者協会のハーヴァ・カリモヴァ代表は、視覚障害や聴覚障害を持つチェチェンの子どもたちが必要な支援を受けられるように活動をしています。私たちは、ボストンのパーキンズ盲学校から専門家を招聘しました。パーキンズ盲学校は、視覚障害や視覚・聴覚の重複障害を持つ子どもたちを社会に送り込む教育にかけては、世界有数の専門機関です。

チェチェンに2ヶ月間滞在して私が得た結論は、戦争の余波は戦争そのものに劣らず悲惨だということでした。チェチェンでは復興が進んでいますが、その裏を覗けば、悲惨な医療問題が隠れています。チェチェンでは出生率が上昇していますが、主に戦争と環境の汚染によって先天性の障害を持って生まれる子どもの割合も増えています。グロズヌイに滞在している間、私は、毎朝第9私立病院を訪れては、様々な障害—口蓋裂、口唇裂、ダウン症—や重度の火傷といった怪我に苦しむ子どもを持つ親たちの訴えに耳を傾けてきました。チェチェンには先天性障害や出生前の治療ができる専門家は実質的に存在しません。病院には超音波装置やX線機器といった基本的な診断装置もありません。復興が始まったとはいえ、私が子どもたちの病気の相談を受けていた病院は、雨漏りをするひどい有様でした。

また、私は、世界中で口蓋・口唇裂の子どもたちを手術する国際組織「オペレーション・スマイル」の活動に参加し、手術が必要な20人の子どもを見つけ、バスを手配してロシア南部のタガンログ市に連れて行きました。私自身も国際外科医チームの一員となって、手術を行いました。手術が終わると、私は子どもと母

親たちと一緒にバスでグローズヌイに戻りました。翌月にはそれぞれの子どもたちの家を頻りに訪れて、子どもたちが回復していることをボストンに戻る前に確認することができました。今年 9 月には、「オペレーション・スマイル」は、米国の外科医を招いて、チェチェンでミッションを実施する予定です。

ICCC は、チェチェンの子どもたちを支援するために最も必要なことは、医療機器の支援に加えて、医療専門家にインターネットで情報を提供することだと確信しています。チェチェンでは大半の医師がコンピュータを持っておらず、その使い方も知りません。このため、私は、医療専門家が世界中の医療情報にアクセスできるインターネット医療センターをグローズヌイに設立するための基金を立ち上げようとしています。

支援者のみなさまのご協力に改めてお礼を申し上げます。私がチェチェンで出会った多くの人々が、みなさまの支援に感謝していたことを、ここでご報告したいと思います。

米国はイラクでの戦争を続けていますが、それでもなおアメリカにいるみなさまがチェチェンのことを考えてくださっていることに、多くの人々が感激していました。

本当にありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

ICCC 代表 ハッサン・バイエフ

2007 年 9 月

チェチェンのインフラを再建するための 3 つの新プロジェクト

支援者のみなさま:

ICCC(チェチェンの子どもたち国際委員会)は、チェチェン戦争で孤児となった子どもたちを引き取った、貧しい家族に対して、今後もささやかな援助を続けていくことを考えています。目覚ましい成果を収めた小麦配給計画も続けていきます。

私は先日チェチェンに 5 週間滞在しました(2007 年 3 月のニュースレターで報告しましたが)、それによって自分の生まれた国が医療危機に直面しているという思いがいっそう深まりました。ICCC は、先天性の障害を持つ子どもが増えていることを強く懸念しています。チェチェン戦争では、約 4 万人の子どもが殺されました。これは、チェチェン人の人口が 100 万人あまりであることを考えると、本当にぞっとするような数字です。殺されてしまった子どもが 4 万人もいるなら、戦争によって障害を負ったり負傷したりした子どもは一体どれくらいいるのでしょうか?そのことを考えると私たちは気がおかしくなりそうです。さらに、多くの子どもが先天的な障害を持って生まれてきますが、これは戦争によってひどい環境汚染が進んだためであると考えられています。チェチェンの最新の統計によると、3 人に 1 人の子どもが、何らかの欠陥や障害を持って生まれてきます。

以下のような良い報告もあります:

オペレーション・スマイル：最近、私はボストンの小児科病院形成外科で最新の技術を学んでいます。5月には、先天的な口唇裂[上唇が生まれつき裂けている状態]と口蓋裂[上顎が生まれつき裂けている状態]の接合手術を低開発国の児童に施している米国慈善団体「オペレーション・スマイル財団」の外科医グループが主催する2週間の訓練に参加しました。11月、私はチェチェンに帰国し、20人の口唇口蓋裂の子どもを探し、「オペレーション・スマイル」による手術を受けられるように準備をしました。私自身も何件かの手術を担当する予定です。

医療機器：チェチェンでは、医療物資が不足しているため、子どもたちに提供できる医療が限られてしまっています。医療物資への需要は極めて深刻です。どうか、私たちが以下の必要な物資を入手できるよう、みなさまのご支援をお願いいたします。手術台、電気外科用発電機、麻酔器、頭蓋顎顔面手術用の器具。

情報格差：ボストンの病院で手術の見学を重ねるにつれて、私は先進諸国であれば、いつでも利用できる情報を、インターネットを通じて、チェチェンの医師と医療専門家に発信しなければならないという思いを強めていきました。チェチェンでは、多くの医療専門家はコンピュータを持っておらず、その使い方も知りません。この問題を解決するために、ICCCは次のプロジェクトのための助成金の交付を申請しています。

— グローブヌイの医療相談センター：医療資源への高速なインターネット・アクセスを実現します。あいにく、ほとんどのチェチェンの医師は、今でもコンピュータとインターネットを使いこなすことができないのです。

— グローブヌイの子どもインターネット情報センター：子どものためのインターネット図書館を作ります。チェチェン戦争が起こる前には、チェチェンには680の図書館がありました。今日、チェチェンには図書館は265館しかありません。そのうち子ども用の図書館は、たった18館です。

— 女性のためのコンピュータ・リテラシー・センター：チェチェン戦争によって多くの家族は働き手を失ったまま取り残されています。このセンターは、コンピュータとインターネット技術を身につけることで、女性が給料の高い仕事を得られるように支援をします。前号のニュースレターでみなさまにご報告したように、私はチェチェンの医療危機と再建問題について、今後も社会に訴えかけていきます。いつも温かいご支援をいただき、ありがとうございます。ICCCは微力ではありますが、戦争によってもたらされた惨禍を多少なりとも和らげるために、意味のある貢献をしていきます。

ICCC 代表／ハッサン・バイエフ医師